

教 員 研 究 活 動 一 覧

2022. 1 - 12

基盤看護学領域

看護教育学分野

看護教育学分野は教授1名（林）、准教授1名（井村）、兼務助教（松田）の3名で運営している。そして、博士前期課程には2名（1名はCNEコース）、後期課程には5名の院生が所属している。博士後期課程では、「看護師の自律的学習動機づけ（宮村）」「新人看護師の医療安全行動（堀）」をテーマとする院生は、昨年に副論文がアクセプトされ、現在は博士論文の執筆中である。また、「退院支援における病棟看護師のコーディネーション（牛場）」をテーマとする院生は、今年、概念分析の論文がアクセプトされ、現在は予備研究を投稿中である。さらに、「新人看護師教育（松田）」をテーマとする院生は、予備研究である「Off-JTでの学びの活用とOJTでの指導内容に関する新人看護師と指導看護師の認識」を投稿中である。科学研究費の支援を受けている「多職種協働（林）」「看護学生のコミュニケーション（井村）」はデータ収集を終え、投稿準備中である。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻(号): 頁	著 者・共 著 者 名
消極的職業選択動機で入学した看護系大学生の職業決定プロセス	2022 年 12 月	日本医学看護学教育学会誌, 31(4)	牛場かおり, <u>林 智子</u> , <u>井村香積</u>

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻(号): 頁	著 者・共 著 者 名
退院支援における病棟看護師のコーディネーションの概念分析	2022 年 12 月	日本看護科学学会誌, 42: 422-428	牛場かおり, <u>林 智子</u> , <u>井村香積</u>

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
多職種チームでの退院支援における病棟看護師のコーディネーション	2022 年 11 月	第15回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会（新潟医療福祉大学, 完全オンライン）	牛場かおり, <u>林 智子</u>
看護師の自律的学習動機づけ尺度の信頼性と妥当性の検証	2022 年 8 月	日本看護学教育学会第32回学術集会（甲南女子大学, 兵庫県）	宮村啓子, <u>林 智子</u> , <u>井村香積</u>

<講演等>

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講 演 者 名	対 象
看護学生・新人看護職の思考力を伸ばす指導とは？	三重看護研究会研修会	2022 年 9 月	<u>林 智子</u>	看護職

<公的機関，民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
令和4年度 日本学術振興会科学研究費補助 金（基盤研究C）	看護学生の深い自己理解をもたらすコミュニケーション 教育方法の開発	井村香積，林 智子， 牧野孝俊，松田未来子
令和4年度 日本学術振興会科学研究費補助 金（基盤研究C）	多職種協働でのチーム内の葛藤認知が視点取得と対 処行動をへて医療の質に及ぼす影響	林 智子，井村香積

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
看護研究学会東海地方会	監査	井村香積
日本看護管理学会	評議員	林 智子
三重看護研究会	理事長	林 智子

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
公立西知多看護専門学校「看護研究」	非常勤講師	井村香積
三医看同窓会	役員	松田未来子

実践基礎看護学分野

実践基礎看護学分野では、悪性腫瘍を含む血液疾患や一般内科疾患を抱える患者を全人的に支援する看護実践に必要な課題を探究する研究（榎屋）、疾病・障害・加齢等による生活上の問題を有する人々に、リハビリテーション看護の視点から看護支援方法や予防的看護システムの構築を探究する研究（福録）、生体リズム、術後せん妄予防ケアや睡眠促進ケアなど ICU 入室患者の看護に関する研究（松裏）、看護技術教育、リンパ浮腫に関する研究（種田）と幅広いテーマで研究に取り組んでいる。また、大学院生が取り組む研究も、筋萎縮性側索硬化症患者の病名告知に関わる看護師のコミュニケーションスキルに影響する要因、訪問看護師による「におい」に関する臨床判断、化学療法を受ける骨髄腫関連疾患患者の味覚障害発現の傾向と要因の解明、関節リウマチの生物学的製剤治療における意思決定ガイドの開発等多岐にわたることが特色である。月に1回は修士課程と博士課程の学生が合同で研究の進捗状況を話し合う機会を持っている。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
Effects of non-pharmacologic prevention on delirium in critically ill patients: A network meta-analysis	2022 年 5 月	Nursing in Critical Care Online ahead of print	Yutaka Matsuura, Yuko Ohno, Miki Toyoshima, Takayoshi Ueno
A bifurcation concept for B-lymphoid/plasmacytoid dendritic cells with largely fluctuating transcriptome dynamics	2022 年 8 月	Cell Rep. 40(90):111260	Nagaharu K, Kojima Y, Hirose H, Minoura K, Hinohara K, Minami H, Kageyama Y, Sugimoto Y, Masuya M, Nii S, Seki M, Suzuki Y, Tawara I, Shimamura T, Katayama N, Nishikawa H, Ohishi K.

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
三重大学環境・SDGs 告書 2022 第 6 章 環境・SDGs 研究 健康寿命を延ばすための取り組み ー転倒・骨折予防システムの開発ー	2022 年 9 月	https://emr.gecer.mie-u.ac.jp/2022/6-3/	福録恵子

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
Unveiling Highly Fluctuating Single-Cell Transcriptome Dynamics at a Novel Bifurcation Point in a Human Lymphoid Pathway	2022 年 12 月	アメリカ合衆国(ニューオーリンズ)	Keiki Nagaharu, Yasuhiro Kojima, Yuki Kageyama, Yuka Sugimoto, Masahiro Masuya, Shigeru Nii, Masahide Seki, Yutaka Suzuki, Isao Tawara, Teppei Shimamura, Naoyuki Katayama, Kohshi Ohishi
コミュニケーション支援に関する自己学習ソフトを利用した短期体験教育方法の研究：e ラーニングによる予習の実施状況からの考察	2022 年 11 月	第 10 回日本難病医療ネットワーク学会学術集会 (東京)	井村保, 成田有吾, 田中優司, 中井三智子, 福録恵子, 石川武雅

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
Effects of e-learning as support communication for people with ALS among students in multiple healthcare disciplines: Assessment of single-session effects through pre-and post-tests.	2022 年 12 月	33rd International Symposium on ALS/ MND (Web 開催)	Ishikawa T, Narita Y, Imura T, Tanaka Y, Nakai M, <u>Fukuroku K</u>

<講演等>

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講 演 者 名	対 象
健康寿命の秘訣 フレイル予防の豆知識	いい地球の日 WEEK (株式会社赤塚植物園)	2022 年 11 月	<u>福録恵子</u>	一般市民

<公的機関，民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研 究 課 題	研 究 者 名
2022 年～2025 年 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C)	午睡 (Nap time) 導入による睡眠覚醒サイクル改善とせん妄予防効果の検証	<u>松裏豊</u>
2022 年度～2024 年度 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C)	プロテアソーム阻害剤による味覚障害の発症に関与する要因の解明と看護介入	<u>榎屋正浩</u>
2022 年～2025 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 C)	AI 技術を活用した骨粗鬆症患者のセルフイメージシミュレーションシステムの開発	<u>福録恵子</u> ，川中普晴， 成田有吾
2020 年～2024 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 C)	看護師が関節リウマチ患者に行う生物学的製剤自己注射指導プログラムの開発	高村夢香，神崎初美， 白尾久美子， <u>福録恵子</u> ， <u>榎屋正浩</u> ，中島亜矢子
2018 年～2022 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 C)	組織の看護師特性に合わせた新倫理教育方法開発に関する研究	中村美起，長尾理恵， <u>福録恵子</u>
2022 年度 学内若手奨励研究費交付金 (天理医療大学医療学部看護学科)	高齢在宅療養者のケアの場面における訪問看護師の“におい”の看護判断に関する研究	佐上裕子，横井弓枝， <u>福録恵子</u> ，内田宏美

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本骨髄バンク	ドナーコーディネーション	<u>梶屋正浩</u>
令和4年度 レベルⅢ「日常ケアから看護研究へ」研修三重大学 医学部附属病院看護部	プレゼンテーションについて（講師）	<u>福録恵子</u>
社会医療法人畿内会 岡波専門学校	基礎看護学 看護学概論Ⅱ（看護研究）（非常勤講師）	<u>福録恵子</u>
社会医療法人畿内会 岡波専門学校	基礎看護学 看護学概論Ⅱ（看護研究）（非常勤講師）	<u>種田ゆかり</u>
令和4年度 附属病院看護部教育 クリニカルリーダー研修「看護研究」	個別指導（講師）	<u>種田ゆかり</u>
令和4年度 レベルⅣ「日常ケアから看護研究へ」研修三重大学 医学部附属病院看護部	個別指導（講師）	<u>種田ゆかり</u>

看護管理学分野

- ①看護管理実践の質的向上に貢献できる研究
- ②看護管理学の発展に貢献できる研究
- ③診療報酬・介護報酬における看護の評価の根拠となる看護管理に関連した研究
- ④看護制度・政策に貢献できる研究

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
The Relationship between Hospital Ethical Climate and Continuing Education in Nursing Ethics.	2022 年 7 月	PLOS ONE DOI: https://doi.org/10.1371/journal.pone.0269034	Okumoto A, Miyata C, Yoneyama S, Kinoshita A
日本語版倫理的風土尺度の信頼性と妥当性の検討	2022 年 9 月	日本看護科学会誌 41:391-394	奥本綾香, 米山智子, 宮田千春, 木下彩栄

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
A study of professionalism among short-time regular nurses-Focusing on professional autonomy-	2022 年 4 月	25th East Asian Forum of Nursing Scholars (Web)	Takuwa Y, Miyata C
Exploring key factors of human resources management (HRM) of Economic Partnership Agreement (EPA) nurses in Japan: A qualitative study.	2022 年 4 月	25th East Asian Forum of Nursing Scholars (Web)	Miyata C, Takuwa Y, Odejimi O
Nurse Professional Autonomy in Geriatric Health Services Facilities.	2022 年 11 月	International Conference on Medical & Health Science (Italy)	Miyata C, Arai H

<公的機関, 民間等との研究上の協力状況>

研 究 補 助 機 関 名	研 究 課 題	研 究 者 名
平成 30 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 (若手)	介護老人保健施設における看護師の専門職的自立性向上モデルの開発	宮田千春

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本看護科学学会	査読委員	宮田千春

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
鈴鹿医療保健科学大学大学院	非常勤講師	宮田千春
三重大学医学部附属病院看護部「ラダーⅣ リーダーシップ研修」	講師	宮田千春
三重大学医学部附属病院看護部「ラダーⅢ リーダーシップ研修」	講師	宮田千春
三重大学医学部附属病院看護部「日常ケアから看護研究へ」	研究指導	宮田千春
三重県看護協会 認定看護管理者教育課程セカンドレベル	講師	宮田千春

実践看護学領域

がん看護学分野

がん看護学分野では「がん」という病いの持つ特質から、緩和ケア、エンド・オブ・ライフ・ケア、遺族ケアに焦点を当てている。がんという病いが当事者や家族の人生にかかわる出来事であるため、人が生きる意味や人間存在の理解をこれまでの実存哲学だけでなく、量子力学等の他分野の知見を取り入れて深めること、その新しい人間理解の視点でケアを考えることに取り組んでいる。人を捉える意識の一つに「強み」があり、がんの罹患や死別といった辛い体験の中に埋もれているその人の生きる力、強みを見出し引き出し支えることに取り組んでいる。また、人生会議と称される Advanced care planning を広める活動を行い、元気な頃からの ACP 研究にも取り組んでいる。そして、これまで培われてきた知見を教育するための研究として、卒前教育の終末期ケアシミュレーション教育の効果検証を行い、卒後教育にも取り組んでいる。がん遺伝子パネル検査の看護研究にも取り組んでいる。

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
看護師のシミュレーション教育に関する日本の研究動向	2022 年 2 月	第 36 回日本がん看護学会学術集会（横浜市）	犬丸杏里, 片山朝可
「プレ CNS 教育プログラム」の実践ー受講者時各社の立場から振り返るー	2022 年 5 月	第 4 回三重看護研究会（四日市市）	菱谷徳子, 木村由紀子, 向井未年子, 大市三鈴, 福永稚子, 佐野悦子, 坂口美和, 辻川真弓
がん患者の外来受診同行における訪問看護師の実践	2022 年 11 月	第 12 回日本在宅看護学会学術集会（東京都）	岡田まり, 坂口美和, 辻川真弓
多人数学生を対象とした終末期ケアシミュレーション教育シナリオの開発ー主観的評価：フロー体験と客観的技能評価：OSCE を基盤としてー	2022 年 12 月	第 42 回日本看護科学学会学術集会（広島市）	玉木朋子, 横井弓枝, 犬丸杏里, 藤井 誠, 大野ゆう子, 辻川真弓
看護大学生を対象とした多人数参加型終末期ケアシミュレーションの効果ー振り返り内容の質的検討ー	2022 年 12 月	第 42 回日本看護科学学会学術集会（広島市）	横井弓枝, 玉木朋子, 犬丸杏里, 藤井 誠, 澤田樹里, 大野ゆう子, 辻川 真弓
OSCE における評価者感信頼性の検討ーシミュレーション教育の効果評価に OSCE を実施して	2022 年 12 月	第 42 回日本看護科学学会学術集会（広島市）	藤井 誠, 玉木朋子, 横井弓枝, 犬丸杏里, 大野ゆう子, 辻川真弓
がん看護専門看護師が必要と考える 2ー4 年目の看護師に対する終末期・緩和ケア教育	2022 年 12 月	第 42 回日本看護科学学会学術集会（広島市）	犬丸杏里, 玉木朋子, 辻川真弓
臨床看護師に対する緩和ケア教育の日本における研究の動向	2022 年 12 月	第 46 回日本死の臨床研究会年次大会（津市）	竹ノ内郁美, 犬丸杏里
看護大学生を対象とした終末期ケアシミュレーション教育～7 年間の取り組みとその効果について	2022 年 12 月	第 46 回日本死の臨床研究会年次大会（津市）	玉木朋子, 横井弓枝, 犬丸杏里, 藤井 誠, 大野ゆう子, 辻川真弓
一般市民を対象とした「もしバナゲーム」を用いた ACP ワークショップの評価ー死生観変化による量的検討ー	2022 年 12 月	第 46 回日本死の臨床研究会年次大会（津市）	辻川真弓, 犬丸杏里, 坂口美和, 武田佳子, 船尾浩貴, 玉木朋子
一般市民を対象とした「もしバナゲーム」を用いた ACP ワークショップの評価ー感想による質的検討ー	2022 年 12 月	第 46 回日本死の臨床研究会年次大会（津市）	犬丸杏里, 坂口美和, 武田佳子, 船尾浩貴, 玉木朋子, 辻川真弓
市民を対象とした ACP ワークショップの評価ー「話し合いをしてみようと思う理由」の質的分析ー	2022 年 12 月	第 46 回日本死の臨床研究会年次大会（津市）	坂口美和, 犬丸杏里, 竹内佐智恵, 武田佳子, 船尾浩貴, 辻川真弓

<講演等>

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講演者名	対 象
三重県がんにおける質の高い 看護師育成研修 家族ケア	三重県がんにおける質の高い看護 師育成研修 三重大学医学部 附属病院	2022 年 7 月	<u>坂口美和</u>	がん医療に携 わる三重県内 の看護師

<公的機関，民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研 究 課 題	研 究 者 名
科学研究費基盤 C	一般市民の人生会議（アドバンス・ケア・プランニ ング）を支援する取り組みとその評価	研究代表者：辻川真弓 研究分担者：松原貴子， 犬丸（黒澤）杏里， 玉木朋子，船尾浩貴， 竹内佐智恵， <u>武田佳子</u> ， <u>坂口美和</u>
科学研究費基盤 C	看護基礎教育実践への適用可能性を目指した EOL ケアシミュレーションの構築	研究代表者：玉木朋子 研究分担者： 犬丸（黒澤）杏里， 横井弓枝，大野ゆう子， 藤井 誠，辻川真弓
科学研究費若手	緩和ケアシミュレーションの開発とその評価	研究代表者： <u>犬丸（黒澤）杏里</u>
科学研究費基盤 C	がん遺伝子パネル検査を受ける患者に対する看護支 援の開発	研究代表者： <u>武田佳子</u> 研究分担者：望木郁代， 奥川喜永，辻川真弓， 北嶋貴仁，藤原拓海， 井上佳代

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
第 46 回日本死の臨床研究会年次大会	企画メンバー	<u>坂口美和</u>
第 46 回日本死の臨床研究会年次大会	抄録査読委員	<u>坂口美和</u> ， <u>犬丸杏里</u>
第 46 回日本死の臨床研究会年次大会 ミッシング リンク～失われた光の輪（魂の記憶）を取り戻す～	座長	<u>坂口美和</u>
第 1 回医療における魂・霊性研究会	企画メンバー	<u>坂口美和</u>
日本死の臨床研究会誌	査読委員	<u>坂口美和</u>

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
三重県看護協会三重県保健師助産師看護師実習指導者講習会	非常勤講師	辻川真弓, 犬丸杏里
附属病院 レベルⅣ「日常ケアから看護研究へ」	研修会 講師	坂口美和
三重県看護協会 研究倫理委員会	審査委員	坂口美和
医療における魂および霊性探求プロジェクト	企画メンバー・会誌発行	坂口美和
三重県内病院を結んだ多職種緩和ケアレビカンファレンス	主催	坂口美和
第15回 市民公開講座「肝臓がんについて」	パネルディスカッション座長	坂口美和
プレCNS教育プログラム	プレCNS教育プログラム企画・運営	福永稚子, 木村由紀子, 菱谷徳子, 坂口美和, 辻川真弓

成人看護学分野

【活動概要】2022年度の成人看護学分野は教授、助教の2人体制のなかで主に教育活動と、教育を支援して下さる諸機関の研修や事務局活動への貢献が追随する活動が主たるものとなった。

【研究概要】成人看護学分野で取り組んだ研究は、前年度までがん看護学分野をけん引してこられた辻川真弓教授の科研のもしバナに関する集大成に関与したものと、船尾浩貴助教が取り組み始めた仮想現実感（VR）による在宅リハビリテーション促進策の開発に関する研究活動が中心となった。もしバナはカードを用いて自身が終末期を迎えるもしもの時を想定し、何を重要と考えるかについて複数人で話す活動である。これを市民に情報提供しながら、家族で話す行動がどの程度浸透するかを捉えたものであった。話す行動の浸透は明らかではなかったが、関心の高まりが示唆される結果となった。その他、分野で取り組んだ研究は大学院生の研究支援であった。いずれも研究計画の熟考期間であるが、文献検討を重ねた。

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
一般市民を対象とした「もしバナゲーム」を用いた ACP ワークショップの評価 －死生観変化による量的検討－	2022 年 12 月	第 46 回日本死の臨床研究会年次大会（津市）	辻川真弓, 犬丸杏里, 坂口美和, 武田佳子, 船尾浩貴, 玉木朋子
一般市民を対象とした「もしバナゲーム」を用いた ACP ワークショップの評価 －感想による質的検討－	2022 年 12 月	第 46 回日本死の臨床研究会年次大会（津市）	犬丸杏里, 坂口美和, 武田佳子, 船尾浩貴, 玉木朋子, 辻川真弓
市民を対象とした ACP ワークショップの評価 －「話し合いをしてみようと思う理由」の質的分析－	2022 年 12 月	第 46 回日本死の臨床研究会年次大会（津市）	坂口美和, 犬丸杏里, 竹内佐智恵, 武田佳子, 船尾浩貴, 辻川真弓

<講演等>

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講 演 者 名	対 象
男性, 女性の更年期__症状と対応	ぐるーぷ藤職員研修	2022 年 8 月	竹内佐智恵	看護師, 介護士

<公的機関, 民間等との研究上の協力状況>

研 究 補 助 機 関 名	研 究 課 題	研 究 者 名
2021～2023 年度 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	仮想現実感（VR）による在宅リハビリテーション促進策の開発	研究代表者：船尾浩貴 研究分担者：島岡 要, 百崎 良, 川本英嗣, 辻川真弓
2021～2024 年度 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	一般市民の人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）を支援する取り組みとその評価	研究代表者：辻川真弓 研究分担者：松原貴子, 犬丸（黒澤）杏里, 玉木朋子, 船尾浩貴, 竹内佐智恵, 武田佳子, 坂口美和,

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
三重看護研究会	学会事務局	<u>船尾浩貴</u>

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
三医看同窓会	役員	<u>船尾浩貴</u>
三重大学医学部付属病院看護部レベルⅣ「日常ケアから看護研究へ：文献検討」	研修講師	<u>竹内佐智恵</u>
三重大学生生活協同組合	理事	<u>竹内佐智恵</u>
三重大学医学部付属病院特定行為研修管理委員会	委員	<u>竹内佐智恵</u>

母性看護・助産学分野

母性看護学・助産学では、性と生殖の観点から女性のライフサイクル、特に胎児期から成熟期に焦点を当てた母性の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解し、女性のライフサイクル全般を対象に、現象を理解し、介入方法の検討に関して研究します。

現在、研究室では、周産期にある対象とその家族の睡眠リズムとメンタルヘルス、母乳育児支援に関して、共同研究を行なっています。また、大学院生は、周産期の冷え症、助産師のワークエンゲージメント、メンタルヘルスリテラシー、帝王切開を受ける女性への支援をテーマに研究を進めています。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
An evaluation of the signs of nipple trauma associated with breastfeeding: a delphi study.	2022 Aug	J Hum Lact. 38(3):548-558.	Nakamura M, <u>Asaka Y</u>
Preterm toddlers have low nighttime sleep quality and high daytime activity.	2022 Nov	Sci Rep. 12(1):20032.	<u>Asaka Y</u> , Mitani Y, Ohta H, Nakazawa T, Fukutomi R, Kobayashi K, Kumagai M, Shinohara H, Yoshida M, Ando A, Yoshimura Y, Nakagawa M, Oishi Y, Mizushima M, Adachi H, Kaneshi Y, Morioka K, Seto Y, Shimabukuro R, Hirata M, Ikeda T, Ozawa M, Takeshima M, Manabe A, Takahashi T, Mishima K, Kikuchi M, Yoda H, Kusakawa I, Cho K
Does locality have more impact than ethnicity on contraceptive use?	2022 Nov	ACHNR. 4(2):9-16	Yog Maya Bhandari, Susumu Tanimura, Mayumi Mizutani, <u>Yoko Asaka</u> , Ritsuko Nishide

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
パースレビュー実践を再考する (総説)	2022 年 3 月	三重看護学誌 . 24:1-7	<u>安積陽子</u>

<口述発表>

発 表 演 題 名	発表年月	学会研究会名 (開催地)	発 表 者 名
早産出生の乳幼児の睡眠と精神発達	2022 年 6 月	第 118 回日本精神神経学会学術総会（福岡）	太田英伸, 安藤明子, 吉村優子, 中川真智子, 安積陽子, 中澤貴代, 三谷裕介, 大石芳久, 水島正人, 安達裕行, 兼次洋介, 森岡圭太, 島袋 秀, 平田倫生, 池田尊司, 福富理佳, 小林京子, 小澤美和, 竹島正浩, 真部 淳, 高橋 勉, 三島和夫, 草川 功, 與田仁志, 菊知 充, 長 和俊
ネパールにおいて民族性と地域性のどちらが避妊の実行により影響を与えるのか	2022 年 10 月	第 81 回日本公衆衛生学会（山梨）	谷村 晋, 水谷真由美, 安積陽子, 西出りつ子
動機づけ面接の研修後に助産師が抱いた妊婦禁煙指導に対する認識	2022 年 10 月	第 16 回日本禁煙学会学術集会（オンライン）	加藤千洋, 久保田聡美
周産期メンタルヘルスリテラシーに関する文献検討	2022 年 11 月	第 36 回三重母性衛生学会（三重）	松見友紀, 安積陽子
NICU 入院の有無における正期産児の母親の母乳育児自己効力感の予測要因の比較検討	2022 年 12 月	第 42 回日本看護科学学会（広島）	中谷三佳, 安積陽子, 大林陽子, 新小田春美
自閉スペクトラム症児の睡眠問題と認知発達	2022 年 12 月	第 29 回日本時間生物学会（栃木）	太田英伸, 安藤明子, 吉村優子, 中川真智子, 安積陽子, 中澤貴代, 三谷裕介, 大石芳久, 水島正人, 安達裕行, 兼次洋介, 森岡圭太, 島袋林秀, 平田倫生, 池田尊司, 福富理佳, 小林京子, 小澤美和, 竹島正浩, 真部 淳, 高橋 勉, 三島和夫, 草川 功, 與田仁志, 菊知 充, 長 和俊
「動機づけ面接」を用いた看護教育に関する国外研究の動向	2022 年 12 月	第 42 回日本看護科学学会学術集会（広島, オンライン）	久保田聡美, 大野佳子, 小林康江, 加藤千洋, 山本晴美, 神山ときえ

<講演等>

演 題 名	講演会名 主 催 者	講演年月	講演者名	対 象
相談者のやる気を引き出す動機づけ面接	公益財団法人三重県労働福祉協会 第 2 回就職氷河期世代支援者向け講演会	2022 年 2 月	加藤千洋	三重県内の就職支援者等
女性の一生はホルモンに支配されている！？	パナソニック社員対象 e ラーニング	2022 年 2 月	加藤千洋	パナソニック社員
5 学部代表による研究発表（「冷え症と女性の健康－助産師の私が女性のためにできること－」）・シンポジウム	三重大学アカデミックフェア 2022	2022 年 11 月	近藤桃子	三重大学の大学院生, 高校生, その保護者

<公的機関，民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2017～2021 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究 C） *2022 年まで延長	出産後 1 年間の睡眠覚醒リズムと夫婦のメンタルヘルスに関する縦断研究	<u>安積陽子</u>
2020～2023 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業（若手研究）	妊婦に対する冷え症ケアと妊娠経過に関する研究	<u>近藤桃子</u>

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本助産学会	編集委員	<u>安積陽子</u>
日本助産学会	代議員	<u>安積陽子</u>
第 69 回日本小児保健協会学術集会	一般演題 座長	<u>安積陽子</u>
第 36 回三重母性衛生学会	学会事務局	<u>安積陽子</u>
三重母性衛生学会	理事長	<u>安積陽子</u>
寛容と連携の日本動機づけ面接学会	常任理事	<u>加藤千洋</u>

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
全国助産師教育協議会	CBT 問題作成ワーキング	<u>安積陽子</u>
助産学会 医療事故調査・支援センター 学会推薦担当者	センター個別部会員の推薦	<u>安積陽子</u>
三重大学附属病院看護部研修 「日常ケアから看護研究へ」	「クリティーク」の講義	<u>安積陽子</u>
NPO 法人日本交流分析協会	理事中部支部長	<u>加藤千洋</u>
中外製薬 MIRAI プロジェクト	運営委員	<u>加藤千洋</u>
全国助産師教育協議会 資格・専門能力委員会 令和 4 年度助産師国家試験プール問題公募の啓発・応募促進事業 問題作成・登録協力活動	国試プール問題作成委員	<u>近藤桃子</u>

小児看護学分野

小児看護学分野では、小児がんの長期フォローアップや炎症性腸疾患のあるこどもの生活支援等の他、重症心身障害児の痛み、終末期ケアなど小児緩和ケアに関する研究に取り組み、その成果は学会発表、論文投稿した。研究的取り組みは、学内教員だけでなく附属病院など臨床の看護師と協働することでより実践にいかすことのできる成果をもたらした。また、三重県内の小児医療に携わる看護師を対象とした講義の他、他大学大学院での授業担当など、小児看護の教育活動にも広く従事した。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
銀イオンおよび銅イオンによる抗菌塗装 把手の有効性の検証	2022 年 3 月	三重看護学誌 24 : 9-16	村端真由美, 矢野久子, 中村明子, 奥住捷子
看護師が捉えた重症心身障害児の痛みの サインと原因	2022 年 3 月	三重看護学誌 24 : 17-24	大北真弓
Comparison of Psychological Quality of Life Between Long-term Survivors of Childhood Cancer and Their Families	2022 年 7 月	J Adolesc Young Adult Oncol. 16. doi: 10.1089/jayao.2021.0217.	Shinohara Y, Morino T, Shimoura K, Niu Q, Mukaiyama K, Chen C, Matsumura N, Shimizu H, Tabata A, Hanai A, Nagai-Tanima M, Ogawa M, Kato T, Tanimukai H, Matsuoka M, Adachi S, Takita J, Tsuboyama T, Tomoki Aoyama
同世代との比較でみる退院後 5 年以内の 思春期小児がん経験者の運動と健康関連 QOL	2022 年 7 月	日本小児看護学会誌 31 : 126-133	森田 (富中) 美幸, 村端真由美, 加藤由香
潰瘍性大腸炎術後の思春期患者における 生活上の困難と対処行動	2022 年 7 月	日本小児看護学会誌 31 : 134-142	牧田綾, 奥田真央, 大北真弓, 村端真由美
退院後における思春期小児がん経験者の 身体活動と健康関連 QOL の関連性	2022 年 9 月	小児がん看護 17(1) : 18-28	森田 (富中) 美幸, 村端真由美, 加藤由香
Effectiveness of the 23-valent pneumococcal polysaccharide vaccine against community- acquired pneumonia in older individuals after the introduction of childhood 13-valent pneumococcal conjugate vaccine: A multicenter hospital-based case-control study in Japan	2022 年 11 月	Vaccine40 : 6589-6598	Kei Nakashima, Kanzo Suzuki, Masahiro Aoshima, Mayumi Murabata, Kyoko Kondo, Satoko Ohfuji, Wakaba Fukushima, Akiko Maeda, Yoshio Hirota, Pneumonia in Elderly People Study Group

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
終末期; 子どもが有意義な時間を過ごす ための協働意思決定	2022 年 7 月	小児看護 45(7): 847-853	松岡真里
小児緩和ケアと小児看護	2022 年 10 月	小児看護 45(11): 1290-1295	松岡真里

<口述発表>

発 表 演 題 名	発表年月	学会研究会名 (開催地)	発 表 者 名
重症心身障害児の痛みの特性	2022 年 6 月	第 69 回日本小児保健 協会学術集会 (Web)	大北真弓
小児緩和ケアに関する看護師の認識と実践に関する全国調査	2022 年 7 月	日本小児看護学会第 32 回学術集会 (博多)	名古屋祐子, 松岡真里, 竹之内直子, 平田美佳, 有田直子, 古橋知子, 川勝和子, 石浦光世, 中谷扶美
小児期から慢性疾患をもつ AYA 世代の『自分らしくある感覚』に関する認識と実際	2022 年 7 月	日本小児看護学会第 32 回学術集会 (博多)	川合弘恭, 松岡真里
看護師の小児緩和ケアの実践 —全国調査から見えてきた課題—	2022 年 9 月	第 83 回三重県小児保 健学術集会 (津)	松岡真里
当院で治療を受けた小児がん患者の看取りの場所に関する後方視的調査	2022 年 11 月	第 20 回日本小児がん看 護学会学術集会 (東京)	岩井直子, 松岡真里, 蜂須賀史洋, 辻本光江, 才田 聡, 加藤 格, 梅田雄嗣, 平松英文, 足立壯一, 滝田順子

<講演等>

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講演者名	対 象
家族看護・家族ケア	令和 4 年度東京都小児等在宅移行研修事業	2022 年 8 月 7 日	松岡真里	小児在宅医療 に関わる医師・ 訪問看護師他
①子どもと家族が主体である こと ②終末期の子どもと家族の体験と看護	小児在宅ケア研究会	① 2022 年 6 月 19 日 ② 2022 年 11 月 20 日	松岡真里	小児在宅ケア に関わる病院・ 訪問看護師
「小児がん看護研修 アドバンス編」終末期にある小児がんをもつ子どもと家族の看護	兵庫県立こども病院	2022 年 11 月	松岡真里	小児がん看護 に関わる看護 師

<公的機関, 民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研 究 課 題	研 究 者 名
2019～2022 年度 科学研究費助成事業 (学術研究 助成基金助成金) 基盤研究 (B)	小児緩和ケアの対象となる子どもの QOL 向上に向けた看護師教育プログラムの開発	研究代表者: 松岡真里 研究分担者: 有田直子, 平田美佳, 古橋知子, 石浦光世, 名古屋祐子, 田村恵子, 奈良間美保, 笹月桃子, 岡崎 伸
2021～2025 年度 科学研究費助成事業 (学術研究 助成基金助成金) 基盤研究 (B)	社会情動的スキルの発達を促すプログラムの開発と大規模介入研究による効果検証	研究代表者: 細川隆也 研究分担者: 桂 敏樹, 志澤美保, 塩見美抄, 松岡真里, 尾島俊之, 平 和也, 松本有貴

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2021～2025 年度 科学研究費助成事業（学術研究 助成基金助成金）基盤研究（C）	子どものいのちに関わる協働意思決定の実態調査研究～小児科医と家族の対話の構造化～	研究代表者：笹月桃子 研究分担者：酒井康成、 櫻井浩子、 <u>松岡真里</u> 、 加部一彦、板井孝一郎
2022～2025 年度 科学研究費助成事業（学術研究 助成基金助成金）基盤研究（C）	重症心身障害児（者）の痛みを伴う処置場面における緩和ケアの基盤的研究	研究代表者： <u>大北真弓</u> 研究分担者： <u>松岡真里</u> 、 <u>村端真由美</u> 、岩本彰太郎、 宮崎つた子
2020～2022 年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金 新興・再興感染症及び予防 接種政策推進研究事業	ワクチンの有効性・安全性と効果的適用に関する疫学研究	研究代表者：廣田 良夫 共同研究者：福島若葉、 大藤さと子、岡田賢司、 中野貴司、原めぐみ、他 8 名 研究協力者：齋藤智也、 鈴木幹三、小笹晃太郎、 葛西健、矢野久子、 <u>村端真由美</u> 、他
2021～2024 年度 科学研究費助成事業（学術研究 助成基金助成金）基盤研究（C）	在宅で療養する炎症性腸疾患患児の感染予防のための支援方法の構築	研究代表者： <u>村端真由美</u> 研究分担者：矢野久子、 加藤はる、小池勇樹、 妹尾充敏

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
①学会の理事		
日本小児がん看護学会	教育委員会 委員長	<u>松岡真里</u>
三重県小児保健協会	三重県小児保健学会理事	<u>松岡真里</u>
日本小児看護学会 評議委員	倫理委員会	<u>松岡真里</u>
②学術雑誌の査読委員など		
日本小児看護学会	専任査読者	<u>松岡真里</u> 、 <u>村端真由美</u> 、 <u>大北真弓</u>
三重看護研究会	査読委員	<u>大北真弓</u>
日本小児がん看護学会	専任査読者	<u>松岡真里</u>
日本小児保健学会	専任査読者	<u>松岡真里</u>
日本小児臨床アレルギー学会	査読委員	<u>村端真由美</u>
三重看護学誌	査読委員	<u>松岡真里</u> 、 <u>村端真由美</u>
第 27 回日本緩和医療学会学術大会	査読委員	<u>松岡真里</u>
第 20 回日本小児がん看護学会学術集会	査読委員	<u>松岡真里</u>
日本緩和医療学会	小児緩和ケア WPG 員	<u>松岡真里</u>
日本緩和医療学会	学術大会支援メンバー WG 員	<u>松岡真里</u>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
③学会における座長		
第 69 回日本小児保健協会学術集会	一般演題座長	村端真由美, 大北真弓
日本小児看護学会第 32 回学術集会	一般演題座長	松岡真里
第 27 回日本緩和医療学会学術大会	シンポジウム座長	松岡真里
第 20 回日本小児がん看護学会	一般演題座長	松岡真里
第 46 回日本死の臨床研究会	特別事例検討座長	松岡真里
④学会事務局		
三重看護研究会	事務局	村端真由美
東海地区小児糖尿病サマーキャンプ研究会	世話人（企画・運営等）	村端真由美
第 22 回三重県小児在宅研究会	世話人	松岡真里
小児在宅ケア研究会	運営委員	松岡真里
日本小児看護学会第 33 回学術集会	企画委員（プログラム委員）	松岡真里

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
①他大学の非常勤講師		
三重大学教育学部	子どもの保健Ⅰ・Ⅱ	松岡真里, 村端真由美, 大北真弓
京都大学医学部人間健康科学科	小児看護学	松岡真里
京都橘大学大学院	小児看護学特論・演習	松岡真里
愛知医科大学大学院看護学研究科	感染予防看護学特論Ⅳ	村端真由美
松阪看護専門学校	小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱ	村端真由美
②研修会の講師（附属病院レベルⅢ講師を含む）		
三重県立子ども心身医療センター レベルⅡ研修	講師：『看護倫理』『臨床倫理』について	松岡真里
三重県立子ども心身医療センター レベルⅢ研修	講師：権利擁護と社会的責務	松岡真里
三重県立子ども心身医療センター レベルⅢ研修	講師：看護研究	村端真由美
③ボランティア顧問 等		
三医看同窓会	役員	大北真弓
Patient & Family-Centered Care 勉強会	事務局	松岡真里, 村端真由美, 大北真弓
三重ファミリールームボランティアの会	役員	村端真由美
三重ファミリールームボランティアの会	顧問	大北真弓

老年看護学分野

過疎高齢化地域における高齢者および災害時要配慮者への防災対策に関する研究を行っており、主に教育プログラムの開発やシステム構築について研究しています。研究テーマは、災害時要配慮者の避難支援、避難所生活における健康維持、災害時要配慮者にならないための介護予防対策、認知症高齢者の災害準備支援、高齢者福祉施設における避難計画など、産学官連携事業としても展開中です。また、要介護認定高齢者を対象とした運動機能および認知機能の維持・向上に関する研究を地元企業との共同研究で進めているほか、急性期病院の認知症ケアにおける倫理的対応力向上のための教育プログラム開発に関する研究を行なっています。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
Effects of a virtual reality intervention on dementia care education among acute care nurses in Japan: A non-randomised controlled trial	2022 年 11 月	Geriatric Nursing 48 : 269-273	Yuko Yamaguchi, Hirochika Ryuno, Atsuko Fukuda, Sonoko Kabaya, <u>Tokiko Isowa</u> , <u>Mayuko Hiramatsu</u> , <u>Akiko Kitagawa</u> , <u>Yuka Hattori</u> , Akiko Williamson, Chieko Greiner

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
地域で暮らす高齢者・認知症高齢者への 災害支援	2022 年 6 月	臨床老年看護 5.6 月号 : 2-8	<u>磯和勅子</u>

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
Issues Faced while Charting Evacuation Plans in the Event of TSUNAMI DAMAGE by Dementia-Care Facilities Located in Areas Expected to Be Inundated by TSUNAMI	2022/ 10/21-10/22	The 7th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing (Taiwan, Hybrid)	<u>Akiko Kitagawa</u> , <u>Tokiko Isowa</u> , <u>Mayuko Hiramatsu</u> , <u>Yuka Hattori</u>
Problems Assumed by Residents Living in the Coastal Regions of Western Japan in an Evacuation Center Management in a Large-Scale Disaster	2022/ 10/21-10/22	The 7th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing (Taiwan, Hybrid)	<u>Tokiko Isowa</u> , <u>Mayuko Hiramatsu</u> , <u>Akiko Kitagawa</u> , <u>Yuka Hattori</u>

<講演等>

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講演者名	対 象
災害時要配慮者支援 ～一般避難所および福祉避難 所における対策～	「松阪市防災講演会」松阪市	2022 年 10 月	<u>磯和勅子</u>	松阪市自治会, 福祉施設職員, 一般市民
認知症について	「医療講演会」中部電力	2022 年 11 月	<u>磯和勅子</u>	大紀町食生活 改善推進協議 会会員
災害時要配慮者支援 ～避難および避難所における 対策～	「紀北町自治会連合会講演会」 紀北町	2022 年 11 月	<u>磯和勅子</u>	紀北町自治会 連合会, 一般市民
弱者と防災：隙間デザイン「高 齢者・福祉（高齢者福祉）と 防災」	「地域コミュニティレジリエンス を育むための隙間デザイン」 京都大学	2022 年 11 月	<u>磯和勅子</u>	一般市民

<公的機関，民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研 究 課 題	研 究 者 名
2019 年度～2023 年度 科学研究費補助金（基盤 C）	高齢者福祉施設等における津波被害時の避難計画作 成による防災対応システムの構築	研究代表： <u>北川亜希子</u> 研究協力： <u>磯和勅子</u> ， <u>平松万由子</u> ， <u>服部由佳</u>
2021 年度～2025 年度 科学研究費補助金（基盤 C）	地域互助力強化を基盤とした持続可能な高齢者防災 システムの構築	研究代表： <u>磯和勅子</u> 研究協力： <u>平松万由子</u> ， <u>北川亜希子</u> ， <u>服部由佳</u>
中部電力（産学連携事業）	災害時要援護者対策および介護予防活動ならびに避 難所運営支援の検討	研究代表： <u>磯和勅子</u> 研究協力： <u>平松万由子</u> ， <u>北川亜希子</u> ， <u>服部由佳</u>
坂井電機（共同研究）	虚弱高齢者を対象とした車いす装着型の運動機器を 用いた運動介入による効果	研究代表： <u>磯和勅子</u> 研究協力： <u>平松万由子</u> ， <u>北川亜希子</u> ， <u>服部由佳</u>
2021 年度～2025 年度 科学研究費補助金（基盤 C）	認知症高齢者の災害準備力尺度の開発と実態解明	研究代表： <u>服部由佳</u> 研究協力： <u>磯和勅子</u> ， <u>平松万由子</u> ， <u>北川亜希子</u>
2021 年度～2025 年度 科学研究費補助金（基盤 C）	急性期病院の認知症ケアにおける看護職の倫理的対 応力向上の為の教育プログラム開発	研究代表： <u>平松万由子</u> 研究協力： <u>磯和勅子</u> ， <u>北川亜希子</u> ， <u>服部由佳</u>

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本災害看護学会	代議委員	<u>磯和勅子</u>
日本災害看護学会	査読委員	<u>磯和勅子</u>
日本認知症ケア学会	代議員	<u>平松万由子</u>
三重看護研究会	査読委員	<u>服部由佳</u>

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
志摩市役所 介護・総合相談支援課「高齢期の運動指導者フォロー研修」	講師	<u>磯和勅子</u>
志摩市役所 介護・総合相談支援課「高齢期の運動指導者養成研修」	講師	<u>磯和勅子</u>
中勢認知症集談会	世話人	<u>磯和勅子</u>
三重大学みえ防災塾	運営委員	<u>服部由佳</u>
三重大学大学院医学系研究科認知症医療学講座主催；事例相談会（認知症サポート医フォローアップ研修会）	世話人	<u>平松万由子</u>

広域看護学領域

精神看護学分野

精神看護学分野では、教授（片岡）、准教授（桐山）、助教（田村）の3名で運営している。本分野では、その人らしい生活をおくることができる看護の具現化を目指して、研究活動を行っている。一例として、精神障害者や精神科看護師のストレングスを活用した看護の構築を目指した研究（片岡）、COVID-19に関する研究や精神看護における倫理的課題や身体拘束最小化に向けての研究（桐山）、精神科看護教育の充実や腎移植レシピエントの精神面を支えるアプリケーション・ソフトウェア開発とシステム化を探究する研究（田村）と幅広いテーマで研究に取り組んでいる。また、博士前期課程には4名、後期課程には1名の院生が所属している。大学院生が取り組む研究も、精神障害者の目線を大切に、リカバリーを目指した研究を行っていることが特色である。月に2回は博士課程前期と後期の学生が合同で研究の進捗状況を話し合う機会を持っている。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻(号): 頁	著 者・共 著 者 名
COVID-19 パンデミックに対応した福祉施設管理者の体験	2022 年	日本看護科学会誌 42: 21-30	青木裕見, 木下康仁, 瀬戸屋希, 岩本 操, 船越明子, 武用百子, 松枝美智子, 片岡三佳, 安保寛明, 萱間真美

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻(号): 頁	著 者・共 著 者 名
一般病棟の看護管理者が報告する身体拘束最小化の看護	2022 年 8 月	総合病院精神医学 34(2): 159-168	桐山啓一郎, 松下年子
COVID-19 対応や災害支援時における PFA に基づくセルフケアと相互支援	2022 年 4 月	保健師ジャーナル 78(2), 142-148	香月富士日, 桐山啓一郎, 高野歩, 武用百子, 澤田華世, 山田浩雅, 片岡三佳

<著書・訳書>

著書・訳書の名称 分担領域	発 行 年 月	発 行 所 名	共 著・共 訳 者 名
精神科看護 ポケットガイド 分担: 元気回復行動プラン (p.4), 統合失調症 (p.132-133), 精神障害者保健福祉手帳 (p.206), 生活保護法 (p.207)	2022 年 9 月	中央法規	川野雅資編著 共著者: 片岡三佳ほか 55 名
心理職を目指す大学院生のための精神科実習ガイド 分担: 第 13 章 精神科看護師から見て (pp208-224)	2022 年 10 月	誠信書房	津川律子・橘 玲子 共著者: 片岡三佳ほか 14 名

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
アプリを活用した腎移植レシピエントの アドヒアランス向上の試み	2022 年 2 月	第 55 回日本臨床腎移植 学会 (Web)	田村裕子, 西川晃平, 浦和愛子, 渡部小央里, 佐々木典子, 服部文菜, 坂本竜太, 富家 淳, 片岡三佳
アプリの活用によりアドヒアランスが向 上した腎移植レシピエントの 1 例	2022 年 6 月	第 37 回腎移植・血管外 科研究会 (三重)	田村裕子, 西川晃平, 浦和愛子, 渡部小央里, 佐々木典子, 服部文菜, 坂本竜太, 富家 淳, 片岡三佳
ストレングスモデルを身につけよう! with 笑抱の会	2022 年 6 月	第 47 回日本精神科看護 学術集会 in 沖縄 (沖縄)	藪田 歩, 渋谷隆幸, 片岡三佳, 安里順子
看護管理者が認識する医療観察法病棟開 設による一般精神科医療への影響	2022 年 6 月	日本精神保健看護学会 第 32 回学術集会・総会 (Web)	渡邊正樹, 片岡三佳, 大江真人, 宮田千春
精神科看護師の倫理的行動に関連する要 因	2022 年 12 月	第 42 回日本科学学会 学術集会 (広島)	熊崎靖子, 片岡三佳, 桐山啓一郎, 谷村 晋

<公的機関, 民間等との研究上の協力状況>

研 究 補 助 機 関 名	研 究 課 題	研 究 者 名
2022 年度～2025 年度 科学研究費補助金 (基盤研究 C)	腎移植レシピエントの精神面を支えるアプリケーショ ン・ソフトウェア開発と効果の検証	田村裕子, 西川晃平, 岡田元宏

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本看護研究学会	査読委員	片岡三佳
日本精神保健看護学会	代議員, 査読委員	片岡三佳
日本看護科学学会	査読委員	片岡三佳
The Journal of Nursing Investigation	編集委員, 査読委員	片岡三佳
医学と生物学	査読委員	片岡三佳
日本精神保健看護学会第 32 回学術集会・総会	座長, 査読委員	片岡三佳
日本精神保健看護学会社会貢献委員会	副委員長	片岡三佳

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
新しい精神障害者の地域生活支援を考える会「笑抱の会」	企画運営	片岡三佳
兵庫医科大学大学院	非常勤講師（看護倫理）	片岡三佳
浜松医科大学大学院	非常勤講師（コンサルテーション）	片岡三佳
大阪暁光高等学校看護専攻科	非常勤講師（精神看護学概論）	片岡三佳
令和4年度 三重県精神保健福祉基礎研修会 【基礎技術編】「精神科領域における本人・家族への 関わり方の基本」	講師	片岡三佳
三重大学附属病院研修会「ストレングスアプローチ を用いた共育の試み」	講師	片岡三佳
三重大学附属病院研修会「レベルⅢ 日常ケアから 看護研究へ 看護研究とは」	講師	片岡三佳
三重大学附属病院研修会レベルⅤ 看護研究「研究 計画書の書き方」	講師	片岡三佳

地域看護学分野

地域看護学分野では、国内外を調査フィールドとして、地域住民の健康に資する科学的根拠を創出する研究を大学院生とともに展開している。国内研究では、哺乳瓶使用と不規則な歯磨き、母親の未処置歯が幼児の齲蝕と関連する(Nishide, et al., 2018)、運動よりも日常身体活動の方が女性のメタボリックシンドローム予防効果が高い(Kudo, et al., 2021)、友人との交流(前期・後期高齢者)や介護予防事業への参加(後期高齢者)が閉じこもり予防要因になる(Mizutani, et al., 2022)などを明らかにした。さらにインドネシアの小児肥満ベイズ補正割合における地域差(Oktaviani, et al., 2022)、および世界の青少年喫煙率低下における健康影響表示の重要性を究明した(Mizutani, et al., 2019)。本分野では、これらの研究成果をもとに、新たな研究プロジェクトを開始している。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻(号): 頁	著 者・共 著 者 名
Positive deviance: Frequent blood pressure monitoring among non-hypertensive middle-aged women in rural Indonesia	2021 年 10 月 (発行遅延)	Acta Medica Indonesiana. 53(4):397-406.	Mizutani M, Sugiarto H, Bando H, Riyanto, Kondo I, Mock J
Identifying correlates of salt reduction practices among rural, middle-aged Muslim Indonesians with hypertension through structural equation modeling	2022 年 1 月	Nutrition and Health. 2601060211057624.	Mizutani M, Tashiro J, Sugiarto H, Maftuhah, Riyanto, Mock J, Nakayama K
Prevalence of obesity and overweight stratified by age group of the 34 provinces in Indonesia: Local empirical Bayesian estimation	2022 年 1 月	Asian Community Health Nursing Research. 3(2):15-21.	Oktaviani S, Mizutani M, Nishide R, Tanimura S
Prevalence of Premenstrual Syndrome and Premenstrual Dysphoric Disorder among Mongolian College Students	2022 年 2 月	The Kitakanto Medical Journal. 72(1):43-48	Yanjmaa E, Ogawa S, Tsogbadrakh B, Khurelbaatar T, Khuyagbaatar E, Nasanjargal T, Hayashi K, Takeda T, Oidov B, Shinozaki H.
Optimal timing of elective repeat cesarean deliveries of term singleton pregnancies: A multicenter cross-sectional study	2022 年 3 月	Taiwanese Journal of Obstetrics and Gynecology. 61(2):317-322.	Hoshino M, Shinozaki H, Kitahara Y, Kameda T, Hayashi K, Ogawa S, Ito M, Iwase A.
Comparison of the Hemagglutination Inhibition Titers against Influenza Vaccine Strains in Japan from the 2017/2018 to 2021/2022 Seasons Using a Single Set of Serum Samples	2022 年 6 月	Viruses. 14(7):1455.	Otani N, Nakajima K, Ishikawa K, Ichiki K, Yoda Y, Ueda T, Takesue Y, Yamamoto T, Tanimura S, Shima M, Okuno T.
Volunteer activity and the prevalence of long-term care / support needs among older Japanese people: A spatial error model	2022 年 11 月	Asian Community Health Nursing Research. 4(2):1-8.	Saeki N, Mizutani M
Does locality have more impact than ethnicity on contraceptive use?	2022 年 11 月	Asian Community Health Nursing Research. 4(2):9-16.	Bhandari YM, Tanimura S, Mizutani M, Asaka Y, Nishide R

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発行年月	発表誌名 巻(号): 頁	著者・共著者名
2020年度臨地実習における感染予防対策についてーCOVID-19感染拡大下での臨地実習委員会の取り組み	2022年3月	三重看護学誌 24:35-41.	玉木朋子, 仁尾かおり, 大江真人, 加藤千洋, 水谷真由美, 種田ゆかり
在日ブラジル人妊産褥婦の社会関係と心身の健康に関わる援助探索行動	2022年4月	国際保健医療 37(1):25-33.	畑下博世, 鈴木ひとみ, 河田志帆, 水谷真由美, 西井崇之, 近藤純子, Arnault DMS
2021年度教育体制委員会企画夏季教員研修報告ー大学院の設置に至るプロセスとカリキュラムの実際	2022年5月	保健師教育 6(1):27-32.	白石知子, 西出りつ子, 和泉京子, 佐藤千賀子, 堀井節子, 水谷真由美, 菅原京子
2021年度教育体制委員会事業報告ー大学院化を予定する会員校のためのオンライン交流会	2022年5月	保健師教育 6(1):33-36.	西出りつ子, 佐藤千賀子, 堀井節子, 和泉京子, 白石知子, 菅原京子, 水谷真由美
健康危機管理への教育的取り組みに関する緊急調査報告	2022年5月	保健師教育 6(1):45-50.	和泉京子, 西出りつ子, 堀井節子, 佐藤千賀子, 白石知子, 菅原京子, 水谷真由美
教育体制委員会活動報告	2022年5月	保健師教育 6(1):54.	西出りつ子, 和泉京子, 佐藤千賀子, 白石知子, 菅原京子, 堀井節子, 水谷真由美
Protective and high-risk social activities associated with homebound status among older adults in rural Japan	2022年11月	Preventive Medicine Reports. 30:102037.	Mizutani M, Nishide R, Tanimura S, Hatashita H

<口述発表>

発表演題名	発表年月	学会研究会名 (開催地)	発表者名
Prevalence of obesity and overweight stratified by age group of the 34 provinces in Indonesia: local empirical Bayesian estimation	2022年3月	日本国際保健医療学会 第40回西日本地方会 (オンライン開催)	Oktaviani S, Mizutani M, Nishide R, Tanimura S
1歳6か月児健診総合判定通過児における2年後の支援を要する判定への変化の寄与要因	2022年3月	第92回日本衛生学会 学術総会 (オンライン 開催)	西出りつ子, 中村真梨子, 水谷真由美, 谷村 晋
Association between volunteer activity and prevalence of long-term care/support needs for older people: An ecological study of prefectures in Japan	2022年4月	25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference 2022 (オン ライン開催)	Saeki N, Mizutani M
訪問看護師による非がん療養者とがん療養者の苦痛4要素への緩和ケア実践認識の関連要因	2022年7月	第27回日本緩和医療 学会学術大会 (神戸市)	中田花契, 水谷真由美, 谷村 晋, 西出りつ子

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
喫煙の習慣化に至る経験及び卒煙に向けたニーズ	2022 年 8 月	日本地域看護学会第 25 回学術集会（富山市，ハイブリッド開催）	白谷佳恵，嶋澤順子， <u>水谷真由美</u>
ネパールにおいて民族性と地域性のどちらが避妊の実行により影響を与えるのか	2022 年 10 月	第 81 回日本公衆衛生学会総会（甲府市，ハイブリッド開催）	谷村 晋， <u>水谷真由美</u> ， <u>安積陽子</u> ， <u>西出りつ子</u>
ネパールにおける妊婦喫煙率のホットスポット検出	2022 年 11 月	第 37 回日本国際保健医療学会学術大会（長久手市，ハイブリッド開催）	谷村 晋， <u>水谷真由美</u> ， <u>西出りつ子</u>
R を用いた GIS 公開データの取得	2022 年 12 月	2022 年度統計数理研究所共同研究集会「データ解析環境 R の整備と利用」（立川市，ハイブリッド開催）	<u>谷村 晋</u>

<講演等>

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講 演 者 名	対 象
既存の大学自治体連携 ー三重県の取り組みー	JANPU 災害支援対策 委員会企画 災害フォーラム 「備災：大学間連携により見えてきたこと」（オンライン開催） 日本看護系大学協議会	2022 年 2 月	<u>西出りつ子</u>	JAMPU 会員校 教職員

<公的機関，民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研 究 課 題	研 究 者 名
2021～2023 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究 C）	管理期自治体保健師のキャリア・アンカーの特徴と創造性・挑戦指向の萌出・発達の好機	<u>西出りつ子</u> ， <u>水谷真由美</u> ， <u>谷村 晋</u> ，白石知子， <u>小川将太</u>
2021～2023 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究 C）	循環器疾患死亡と水道水硬度の関連：予防的効果に関する空間疫学的検討	<u>谷村 晋</u>
2020～2023 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業（若手研究）	インドネシア農村 PD 女性を援用した地域健康推進員と協働する定期的血圧測定 RCT	<u>水谷真由美</u>
2022 年度 聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金「研究助成」	空間疫学を援用した特定健康診査の高受診率地域クラスターの検出とその地域特性	<u>水谷真由美</u> ， <u>西出りつ子</u> ， <u>谷村 晋</u>
2022～2024 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業（若手研究）	COVID-19 流行前と流行中における中山間地域の男性の身体活動の変化	<u>小川将太</u>

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本国際保健医療学会	代議員	谷村 晋
日本国際保健医療学会西日本支部	共同代表	谷村 晋
日本国際保健医療学会第 40 回西日本地方会	事務局, 大会長	谷村 晋
第 37 回日本国際保健医療学会学術集会	企画委員	谷村 晋
第 37 回日本国際保健医療学会学術集会シンポジウム 4「グローバル・ヘルスとデータサイエンス」	座長	谷村 晋
日本公衆衛生学会	編集委員, 代議員	谷村 晋
日本健康医学会	理事, 編集委員	西出りつ子
日本公衆衛生看護学会	査読委員	西出りつ子
日本公衆衛生学会	査読委員	水谷真由美
びわ湖国際医療フォーラム	世話人	水谷真由美
第 40 回びわ湖国際医療フォーラム	座長	水谷真由美
日本国際保健医療学会第 40 回西日本地方会	事務局, 事務局長	水谷真由美
三重看護研究会	事務局	水谷真由美
日本国際保健医療学会第 40 回西日本地方会	事務局	小川将太

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
神戸大学	非常勤講師	谷村 晋
鈴鹿医療科学大学	非常勤講師	谷村 晋
滋賀県立総合保健専門学校	非常勤講師	水谷真由美
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 地球規模保健課題解決推進のための研究事業	評価委員	谷村 晋
全国保健師教育機関協議会	教育体制担当事務	西出りつ子
第 37 回全国保健師教育機関協議会 夏季教員研修会第一分科会 (8 月)	座長	西出りつ子
全国保健師教育機関協議会 上乗せ教育を目指す会員校のオンライン交流会 (12 月)	座長	西出りつ子
三重県保健師人材育成業務検討会	委員	西出りつ子
三重県看護系大学防災協議会	委員長	西出りつ子
JANPU 災害連携関西・近畿ブロック会議	委員	西出りつ子
全国保健師教育機関協議会	教育体制委員	水谷真由美
三重県建築審査会	委員 (公衆衛生)	水谷真由美

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
三重県市町保健師協議会 中堅保健師研修会（講義・演習／8月）	講師	<u>西出りつ子</u>
三重県新任期保健師三次研修（講義・演習／12月）	講師	<u>西出りつ子</u>
インドネシア インドラマユ大学（6月）	講師	<u>水谷真由美</u>
三重県高齢者施設等における新型コロナウイルス感染症に係る専用相談窓口	相談員	<u>西出りつ子</u> , <u>水谷真由美</u>